



Cisco Unified IP Phone の診断とレポートの設定

- [診断およびレポートの概要, 1 ページ](#)
- [前提条件, 2 ページ](#)
- [診断およびレポート設定タスク フロー, 4 ページ](#)

診断およびレポートの概要

Cisco Unified Communications Manager には、Cisco IP Phone の通話品質を保証するためのオプションが 2 つあります。

- コール診断：コール診断には、コール管理レコード（CMR）および音声品質メトリックの生成が含まれます。
- 品質レポートツール（QRT）：QRT は、Cisco Unified IP Phone の音声品質と一般的な問題をレポートするツールです。このツールを使用することで、ユーザは IP フォンで生じる音声やその他の一般的な問題を簡単かつ正確に報告できます。

コール診断の概要

SCCP と SIP を実行している Cisco Unified IP Phone は、コール診断を収集するように設定できます。コール診断は、呼管理レコード（CMR）で構成され、診断レコード、音声品質メトリックとも呼ばれます。

音声品質メトリックはデフォルトで有効になっており、大半の Cisco Unified IP Phone でサポートされています。Cisco Unified IP Phone は、MOS（平均オピニオンスコア）値に基づいて、音声品質メトリックを計算します。音声品質メトリックでは、ノイズや歪みは考慮されません。フレーム損失だけが考慮されます。

CMR レコードには、コールの音声ストリームの品質に関する情報が格納されます。CMR を生成するように、Cisco Unified Communications Manager を設定できます。この情報は、課金記録の生成やネットワーク分析などの後処理作業に役立ちます。

品質レポート ツールの概要

品質レポート ツール (QRT) は、Cisco Unified IP Phone の音声品質と一般的な問題をレポートするツールです。このツールを使用することで、ユーザは IP フォンで生じる音声やその他の一般的な問題を簡単かつ正確に報告できます。

システム管理者は、ユーザの IP フォンに QRT ソフトキーを表示するソフトキー テンプレートを設定して割り当てることで、QRT 機能を有効化できます。QRT を使用して行うユーザ インタラクションのレベルに応じて、2つの異なるユーザモードを選択できます。次に、システムパラメータを設定し、Cisco Unified Serviceability ツールを設定することで、このツールの機能方法を定義します。QRT Viewer アプリケーションを使用して、電話の問題レポートを作成、カスタマイズ、および表示できます。

IP フォンに問題が発生しているユーザは、コール状態が [オンフック (On Hook)] または [接続中 (Connected)] の間に、Cisco Unified IP Phone の QRT ソフトキーを押して、問題の種類や他の関連する統計情報を報告できます。ユーザは IP フォンで報告されている問題を最もよく表している理由コードを選択できます。カスタマイズされた電話の問題レポートには、具体的な情報が表示されます。

ユーザが QRT ソフトキーを押して問題の種類を選択すると、QRT はストリーミングの統計情報を収集しようとします。ストリーミングの統計情報を収集するには、QRT でコールを 5 秒以上アクティブにする必要があります。

前提条件

コール診断の前提条件

Cisco Unified IP Phone がコール診断をサポートしているかどうかを確認します。

次の表を使用して、電話がコール診断をサポートしているかどうかを判断します。コール診断のサポートの凡例は次のとおりです。

- X : SCCP と SIP の両方を実行している電話機によるサポート
- S : SCCP 機能のみ

表 1 : コール診断のデバイスのサポート

Device	コール診断のサポート
Cisco Unified IP Phone 7906	X

Device	コール診断のサポート
Cisco Unified IP Phone 7911	X
Cisco Unified IP Phone 7921	X
Cisco Unified IP Phone 7931	X
Cisco Unified IP Phone 7940	S
Cisco Unified IP Phone 7941	X
Cisco Unified IP Phone 7942-G	X
Cisco Unified IP Phone 7942-G/GE	X
Cisco Unified IP Phone 7945	X
Cisco Unified IP Phone 7960	S
Cisco Unified IP Phone 7961	X
Cisco Unified IP Phone 7962-G	X
Cisco Unified IP Phone 7962-G/GE	X
Cisco Unified IP Phone 7965	X
Cisco Unified IP Phone 7970	X
Cisco Unified IP Phone 7971	X
Cisco Unified IP Phone 7972-G/GE	X
Cisco Unified IP Phone 7975	X

Quality Report Tool の前提条件

次の機能が含まれる Cisco IP Phone :

- ソフトキー テンプレートのサポート
- IP 電話サービスのサポート
- CTI による制御可能
- 内部 HTTP サーバを含む

詳細については、お使いの電話モデルのガイドを参照してください。

診断およびレポート設定タスク フロー

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	<p>コール診断の設定, (5 ページ)</p>	<p>Cisco Unified Communications Manager が CMR を生成するように設定するには、このタスクを実行します。CMR レコードには、コールの音声ストリームの品質に関する情報が格納されます。CMR へのアクセス方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Call Detail Records Administration Guide』を参照してください。</p> <p>音声品質メトリックはCisco IP Phone で自動的に有効になります。音声品質メトリックへのアクセス方法の詳細については、電話機モデルの『Cisco Unified IP Phone アドミニストレーションガイド』を参照してください。</p>
ステップ2	<p>品質レポートツールの設定, (5 ページ) を行うには、次のサブタスクを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • QRT ソフトキーのソフトキーテンプレートの設定, (6 ページ) • QRT ソフトキーテンプレートと共通デバイス設定の関連付け, (8 ページ) • 電話機への QRT ソフトキーテンプレートの追加, (10 ページ) • Cisco Unified Serviceability での QRT の設定, (11 ページ) • 品質レポートツールのサービスパラメータの設定, (14 ページ) 	<p>IP フォンで問題が発生したユーザが、QRT ソフトキーを押して、問題のタイプや他の関連統計情報を報告できるように、品質レポートツール (QRT) を設定します。</p>

コール診断の設定

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理から、[システム (System)] > [サービス パラメータ (Service Parameters)] の順に選択します。
- ステップ 2** [サーバ (Server)] ドロップダウン リストから、Cisco CallManager サービスを実行しているサーバを選択します。
- ステップ 3** [サービス (Service)] ドロップダウン リストから、[Cisco CallManager] を選択します。[サービス パラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウが開きます。
- ステップ 4** [クラスタ全体のパラメータ (デバイス - 全般) (Clusterwide Parameters (Device - General))] エリアで、[コール診断有効 (Call Diagnostics Enabled)] サービス パラメータを設定します。次のオプションを使用できます。
- 無効 (Disabled) : CMR は生成されません。
 - CDR有効フラグが True の場合のみ有効化 (Enabled Only When CDR Enabled Flag is True) : [呼詳細レコード (CDR) 有効化フラグ (Call Detail Records (CDR) Enabled Flag)] サービス パラメータが True に設定されている場合のみ、CMR が生成されます。
 - CDR 有効化フラグに関係なく有効化 (Enabled Regardless of CDR Enabled Flag) : [CDR 有効化フラグ (CDR Enabled Flag)] サービス パラメータの値に関係なく、CMR が生成されます。
- (注) [CDR有効化フラグ (CDR Enabled Flag)] サービス パラメータを有効にせずに CMR を生成すると、制御されずにディスク容量が消費される場合があります。CMR を有効にする場合は、CDR を有効にすることをお勧めします。
- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。

品質レポート ツールの設定

IP フォンで問題が発生したユーザが、QRT ソフトキーを押して、問題のタイプや他の関連統計情報を報告できるように、品質レポート ツール (QRT) を設定します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	QRT ソフトキーのソフトキー テンプレートの設定, (6 ページ)	QRT ソフトキーにオンフックと接続コール状態を設定する必要があります。次のコール状態も使用可能になります。 <ul style="list-style-type: none"> • 接続された会議

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> • 接続転送 (Connected Transfer)
ステップ 2	<p>QRT ソフトキーテンプレートと共通デバイス設定の関連付け, (8 ページ) を行うには、次のサブタスクを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 共通デバイス設定への QRT ソフトキーテンプレートの追加, (8 ページ) • 電話機と共通デバイス設定の関連付け, (9 ページ) 	<p>(任意)</p> <p>ソフトキーテンプレートを電話機で使用可能にするには、この手順または次の手順を実行する必要があります。システムが [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] を使用して設定オプションを電話機に適用する場合は、この手順に従います。これは、電話機でソフトキーテンプレートを使用できるようにする際に、最も一般的に使用されている方法です。</p>
ステップ 3	<p>電話機への QRT ソフトキーテンプレートの追加, (10 ページ)</p>	<p>(任意)</p> <p>ソフトキーテンプレートと共通デバイス設定を関連付けるための代替手段として、または共通デバイス設定と共に、次の手順を使用します。ソフトキーテンプレートを適用して、共通デバイス設定での割り当てや、他のデフォルトのソフトキーの割り当てをオーバーライドする必要がある場合は、次の手順を共通デバイス設定と共に使用します。</p>
ステップ 4	<p>Cisco Unified Serviceability での QRT の設定, (11 ページ) を行うには、次のサブタスクを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Extended Functions サービスの有効化, (11 ページ) • アラームの設定, (12 ページ) • トレースの設定, (13 ページ) 	
ステップ 5	<p>品質レポートツールのサービスパラメータの設定, (14 ページ)</p>	<p>(任意)</p>

QRT ソフトキーのソフトキーテンプレートの設定

QRT ソフトキーにオンフックと接続コール状態を設定する必要があります。次のコール状態も使用可能になります。

- 接続された会議
- 接続転送 (Connected Transfer)

手順

- ステップ 1** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [ソフトキー テンプレート (Softkey Template)] を選択します。[ソフトキー テンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 新しいソフトキーテンプレートを作成するには、以下のステップを実行します。それ以外の場合は次のステップに進みます。
- a) [新規追加 (Add New)] をクリックします。
 - b) デフォルトのテンプレートを選択して、[コピー (Copy)] をクリックします。
 - c) [ソフトキーテンプレート名 (Softkey Template Name)] フィールドに、テンプレートの新しい名前を入力します。
 - d) [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 3** 既存のテンプレートにソフトキーを追加するには、以下のステップを実行します。
- a) 検索条件を入力して [検索 (Find)] をクリックします。
 - b) 既存のテンプレートを選択します。
- [ソフトキーテンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** [デフォルトソフトキーテンプレート (Default Softkey Template)] チェックボックスをオンにし、このソフトキーテンプレートをデフォルトのソフトキーテンプレートとして指定します。
- (注) あるソフトキーテンプレートをデフォルトのソフトキーテンプレートとして指定した場合、先にデフォルトの指定を解除してからでないと、そのテンプレートは削除することができません。
- ステップ 5** 右上隅にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストから [ソフトキーレイアウトの設定 (Configure Softkey Layout)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- ステップ 6** [設定するコール状態の選択 (Select a Call State to Configure)] ドロップダウンリストから、ソフトキーに表示するコール状態を選択します。
- ステップ 7** [選択されていないソフトキー (Unselected Softkeys)] リストから追加するソフトキーを選択し、右矢印をクリックして [選択されたソフトキー (Selected Softkeys)] リストにそのソフトキーを移動します。新しいソフトキーの位置を変更するには、上矢印と下矢印を使用します。
- ステップ 8** 追加のコール状態のソフトキーを表示するには、上記のステップを繰り返します。
- ステップ 9** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 10** 次のいずれかの作業を実行します。
- すでにデバイスに関連付けられているテンプレートを変更した場合は、[設定の適用 (Apply Config)] をクリックしてデバイスを再起動します。

- 新しいソフトキーテンプレートを作成した場合は、そのテンプレートをデバイスに関連付けた後にデバイスを再起動します。詳細については、「次の作業」の項を参照してください。

次の作業

次のいずれかの手順を実行します。

- [共通デバイス設定への QRT ソフトキーテンプレートの追加, \(8 ページ\)](#)
- [電話機への QRT ソフトキーテンプレートの追加, \(10 ページ\)](#)

QRT ソフトキーテンプレートと共通デバイス設定の関連付け

これはオプションです。ソフトキーテンプレートを電話機に関連付ける方法は2つあります。

- ソフトキーテンプレートを [電話の設定 (Phone Configuration)] に追加する。
- ソフトキーテンプレートを共通デバイス設定に追加する。

ここに示す手順は、ソフトキーテンプレートを共通デバイス設定に関連付ける方法について説明しています。システムが共通デバイス設定を使用して設定オプションを電話機に適用する場合は、この手順に従ってください。これは、電話機でソフトキーテンプレートを使用できるようにする際に、最も一般的に使用されている方法です。

別の方法を使用するには、[電話機への QRT ソフトキーテンプレートの追加, \(10 ページ\)](#) を参照してください。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	共通デバイス設定への QRT ソフトキーテンプレートの追加, (8 ページ)	
ステップ 2	電話機と共通デバイス設定の関連付け, (9 ページ)	

共通デバイス設定への QRT ソフトキーテンプレートの追加

はじめる前に

[QRT ソフトキーのソフトキーテンプレートの設定, \(6 ページ\)](#)

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理で、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] を選択します。
[共通デバイス設定の検索と一覧表示 (Find and List Common Device Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 新しい共通デバイス設定を作成し、それにソフトキー テンプレートを関連付けるには、以下の手順を実行します。それ以外の場合は、次のステップに進みます。
- [新規追加 (Add New)] をクリックします。
 - [名前 (Name)] フィールドに、共通デバイス設定の名前を入力します。
 - [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 3** 既存の共通デバイス設定にソフトキー テンプレートを追加するには、以下の手順を実行します。
- 検索条件を入力して [検索 (Find)] をクリックします。
 - 既存の共通デバイス設定を選択します。
- [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** [ソフトキー テンプレート (Softkey Template)] ドロップダウンリストで、使用可能にするソフトキーが含まれているソフトキー テンプレートを選択します。
- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 6** 次のいずれかの作業を実行します。
- 新しい共通デバイス設定を作成してその設定をデバイスに関連付けた後に、デバイスを再起動します。詳細については、「次の作業」の項を参照してください。
 - すでにデバイスに関連付けられている共通デバイス設定を変更した場合は、[設定の適用 (Apply Config)] をクリックしてデバイスを再起動します。

次の作業

[電話機と共通デバイス設定の関連付け, \(9 ページ\)](#)

電話機と共通デバイス設定の関連付け

はじめる前に

[共通デバイス設定への QRT ソフトキー テンプレートの追加, \(8 ページ\)](#)

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。

- [電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** ソフトキー テンプレートを追加する電話機を検索します。
- ステップ 3** [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] ドロップダウン リストから、新しいソフトキー テンプレートが含まれている共通デバイス設定を選択します。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 5** [リセット (Reset)] をクリックして、電話機の設定を更新します。
-

電話機への QRT ソフトキー テンプレートの追加

はじめる前に

[QRT ソフトキーのソフトキー テンプレートの設定, \(6 ページ\)](#)

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。
[電話の検索/一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [電話の検索/一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウで、[検索 (Find)] をクリックします。
Cisco Unified Communications Manager で設定されている電話機の一覧が表示されます。
- ステップ 3** 電話ボタン テンプレートを追加する電話機を選択します。
[電話機の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** [電話ボタン テンプレート (Phone Button Template)] ドロップダウン リストで、新しい機能ボタンが含まれる電話ボタン テンプレートを選択します。
- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。
電話の設定を更新するには [リセット (Reset)] を押すというメッセージ付きのダイアログボックスが表示されます。
-

Cisco Unified Serviceability での QRT の設定

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Cisco Extended Functions サービスの有効化, (11 ページ)	品質レポート ツール (QRT) などの音声品質機能をサポートするには、Cisco Extended Functions サービスを有効化します。
ステップ 2	アラームの設定, (12 ページ)	SysLog ビューア内のアプリケーション ログにエラーを記録するには QRT のアラームを設定します。この機能はアラーム (アラームの説明と推奨アクション) をログに記録します。SysLog ビューアには Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool からアクセスできます。
ステップ 3	トレースの設定, (13 ページ)	音声アプリケーションのトレース情報を記録するには QRT のトレースを設定します。QRT に対してトレースファイルに含める情報を設定したら、Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool の Trace and Log Central オプションを使用して、トレースファイルを収集および表示できます。

Cisco Extended Functions サービスの有効化

品質レポート ツール (QRT) などの音声品質機能をサポートするには、Cisco Extended Functions サービスを有効化します。

手順

-
- ステップ 1 Cisco Unified Serviceability から、[ツール (Tools)] > [サービスの有効化 (Service Activation)] を選択します。
 - ステップ 2 [サーバ (Server)] ドロップダウン リストから、Cisco Extended Functions サービスを有効にする ノードを選択します。
 - ステップ 3 [Cisco Extended Functions] チェックボックスをオンにします。
 - ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。
-

次の作業

[アラームの設定, \(12 ページ\)](#)

アラームの設定

SysLog ビューア内のアプリケーション ログにエラーを記録するには QRT のアラームを設定します。この機能はアラーム（アラームの説明と推奨アクション）をログに記録します。SysLog ビューアには Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool からアクセスできます。

はじめる前に

[Cisco Extended Functions サービスの有効化, \(11 ページ\)](#)

手順

-
- ステップ 1 Cisco Unified Serviceability から、[アラーム (Alarm)] > [設定 (Configuration)] を選択します。
 - ステップ 2 [サーバ (Server)] ドロップダウンリストから、アラームを設定するノードを選択します。
 - ステップ 3 [サービスグループ (Service Group)] ドロップダウンリストから、[CM サービス (CM Services)] を選択します。
 - ステップ 4 [サービス (Service)] ドロップダウンリストから、[Cisco Extended Functions (Cisco Extended Functions)] を選択します。
 - ステップ 5 ローカル Syslog と SDI トレースの両方に対して [アラームの有効化 (Enable Alarm)] チェックボックスをオンにします。
 - ステップ 6 ドロップダウンリストから、次のいずれかのオプションを選択して、ローカル Syslog と SDI トレースの両方にアラーム イベント レベルを設定します。
 - [緊急 (Emergency)] : システムが使用できないことを示します。
 - [アラート (Alert)] : ただちに対処が必要であることを示します。
 - [クリティカル (Critical)] : システムがクリティカルな状態を検出しています。
 - [エラー (Error)] : エラー状態が検出されたことを示します。
 - [警告 (Warning)] : 警告状態が検出されたことを示します。
 - [通知 (Notice)] : 異常ではないが重要な状況が検出されたことを示します。
 - [情報 (Informational)] : 単なる情報メッセージであることを示します。
 - [デバッグ (Debug)] : このレベルは、Cisco テクニカルアシスタンスセンター (TAC) のエンジニアがデバッグに使用する詳細イベント情報を示します。

デフォルト値は [エラー (Error)] です。

- ステップ 7 [保存 (Save)] をクリックします。
-

次の作業

[トレースの設定, \(13 ページ\)](#)

トレースの設定

音声アプリケーションのトレース情報を記録するには QRT のトレースを設定します。QRT に対してトレースファイルに含める情報を設定したら、Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool の Trace and Log Central オプションを使用して、トレース ファイルを収集および表示できます。

はじめる前に

[アラームの設定](#), (12 ページ)

手順

- ステップ 1 Cisco Unified Serviceability で、[トレース (Trace)] > [設定 (Configuration)] を選択します。
- ステップ 2 [サーバ (Server)] ドロップダウンリストから、トレースを設定するノードを選択します。
- ステップ 3 [サービスグループ (Service Group)] ドロップダウンリストから、[CM サービス (CM Services)] を選択します。
- ステップ 4 [サービス (Service)] ドロップダウンリストから、[Cisco 拡張機能 (Cisco Extended Functions)] を選択します。
- ステップ 5 [トレース オン (Trace On)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 6 [トレース レベルのデバッグ (Debug Trace Level)] ドロップダウンリストから、次のいずれかのオプションを選択します。

- [エラー (Error)] : すべてのエラー状態、プロセス、デバイス初期化メッセージをトレースします。
- [特殊 (Special)] : 通常運用時に発生するすべての特殊状態とサブシステムの状態遷移をトレースします。コール処理イベントをトレースします。
- [状態遷移 (State Transition)] : 通常運用時に発生するすべての状態遷移の状態とメディアレイヤ イベントをトレースします。
- [重要 (Significant)] : すべての重要な状態と、ルーチンの開始および終了ポイントをトレースします。すべてのサービスがこのトレース レベルを使用するわけではありません。
- [開始_終了 (Entry_exit)] : すべての開始および終了状態と、詳細なデバッグ情報をトレースします。
- [任意 (Arbitrary)] : すべての任意の状態と、詳細なデバッグ情報をトレースします。
- [詳細 (Detailed)] : アラームの状態およびイベントをトレースします。異常なパスで生成されたすべてのトレースに使用します。最小の CPU サイクル数を使用します。

デフォルト値は Error です。

ヒント トラブルシューティングを実行するため、このセクションのすべてのチェック ボックスをオンにすることを推奨します。

- ステップ 7 [保存 (Save)] をクリックします。

次の作業

(オプション) [品質レポート ツールのサービス パラメータの設定](#), (14 ページ)

品質レポート ツールのサービス パラメータの設定



注意

Cisco Technical Assistance Center (TAC) から指示がある場合を除き、デフォルトのサービスパラメータ設定を使用することを推奨します。

手順

- ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified Communications Manager Administration)] で、[システム (System)] > [サービス パラメータ (Service Parameters)] を選択します。
- ステップ 2 QRT アプリケーションが存在するノードを選択します。
- ステップ 3 [Cisco Extended Functions] サービスを選択します。
- ステップ 4 サービス パラメータを設定します。サービス パラメータとその設定オプションの詳細については、「関連項目」セクションを参照してください。
- ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。

関連トピック

[品質レポート ツールのサービス パラメータ](#), (15 ページ)

品質レポート ツールのサービス パラメータ

表 2: 品質レポート ツールのサービス パラメータ

パラメータ	説明
拡張 QRT メニューの選択肢を表示します。	<p>拡張メニューの選択肢がユーザに表示されるかどうかを決定します。次のいずれかの設定オプションを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 拡張メニューの選択肢を表示する（インタビュモード）には、このフィールドを True に設定します。 • 拡張メニューの選択肢を表示する（サイレントモード）には、このフィールドを False に設定します。 • 推奨されるデフォルト値は False（サイレントモード）です。
ストリーミング統計のポーリング期間	<p>ストリーミング統計のポーリングに使用する期間を決定します。次のいずれかの設定オプションを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • コールが終了するまでポーリングするには、このフィールドを -1 に設定します。 • ポーリングを一切行わない場合は、このフィールドを 0 に設定します。 • 任意の秒数の間ポーリングするには、任意の正の値を設定します。コールが終了するとポーリングが停止します。 • 推奨されるデフォルト値は -1（コールが終了するまでポーリングする）です。
ストリーミング統計のポーリング頻度（秒）	<p>各ポーリングの間で待機する秒数を入力します。値の範囲は 30 ~ 3600 です。推奨デフォルト値は 30 です。</p>

パラメータ	説明
Maximum No. of Files	ファイルのカウン트가再起動し、古いファイルを上書きするまでのファイルの最大数を入力します。 有効な値は、1 ~ 10000 です。推奨デフォルト値は 250 です。
Maximum No. of Lines per File	次のファイルを開始する前の各ファイルの最大回線数を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • 値の範囲は 100 ~ 2000 です。 • 推奨デフォルト値は 2000 です。
CAPF Profile Instance Id for Secure Connection to CTI Manager	CTI マネージャへのセキュアな接続を開くために Cisco Extended Function サービスが使用する、アプリケーションユーザ CCMQRTSysUser の CAPF アプリケーションプロファイルのインスタンス ID を入力します。CTI Manager Connection Security Flag パラメータが有効な場合、このパラメータを設定する必要があります。 (注) CTI Manager Connection Security Flag サービス パラメータを有効にすることで、セキュリティをオンにします。変更を有効にするためには、Cisco Extended Functions サービスを再起動する必要があります。
CTI Manager Connection Security Flag	Cisco Extended Functions サービスの CTI Manager 接続のセキュリティを有効にするか、または無効にするかを選択します。有効にすると、Cisco Extended Functions はアプリケーションユーザ CCMQRTSysUser のインスタンス ID に設定された CAPF アプリケーションプロファイルを使用して、CTI マネージャへのセキュアな接続を開きます。 値は True または False を選択します。CTI へのセキュアな接続を有効にするには、True を選択する必要があります。